

計画の名称	連鎖する市街地整備によるまちなか回遊の促進												
計画の期間	令和03年度 ~ 令和07年度 (5年間)								重点配分対象の該当				
交付対象	富良野市												
計画の目標	富良野市は、平成15年から駅前地区の土地区画整理事業（平成14～21年度）と第一種市街地再開発事業（平成15～18年度）を実施し、中心市街地の交通結節点と年間約9万人の住民が活用する「中心街活性化センター」が新たに整備され、本市の中心市街地の都市機能の更新が始まる。続いて、平成20年に新法に基づく「富良野市中心市街地活性化基本計画」（期：H20.11～H26.10、期：H26.11～R2.3）を策定し、計画に基づき平成22年に「フラノマルシェ」（経産省・中心市街地活性化補助金）、平成27年には「ネーブルタウン」（国交省・東4条街区地区市街地再開発事業）、平成30年には「コンシェルジュ フラノ」（経産省・商業等活性化補助金）、「サンライズパーク」（総務省・中心市街地再活性化等特別対策事業）と都市機能を中心市街地へと集積することによりコンパクトシティの推進に取り組んできたところである。この結果、中心市街地の地価は6年連続して上昇（2014～2019年）し、市街地の価値を継続的に高めてきた。本市では、こうした持続性のある連鎖的更新による市街地整備を進めており、従前からまちなかの賑わい創出のベースとしている「点（拠点整備）から線（歩行者通行）へ、線から面（まちなか回遊）へ」の考え方をこれからも踏襲し、今後は、商店街を形成している東5条通りを基軸とした市街地再開発事業を公民連携して展開していく。この中で、防災機能や多目的オープンスペース、商業集積など本市が必要としている都市機能の再集積を図る。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	9	A	9	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (R2)	中間目標値	最終目標値 (R7末)
1	都市機能の誘導、集積による地区再生計画区域内の空き店舗率（含 空き事務所）の減少 地区再生計画区域内の空き店舗数（含 空き事務所）÷地区再生計画区域内の空き店舗（含 空き事務所）含む総店舗数（含 事務所）	14%	%	6%
2	既成市街地の更新を促進する中心市街地における市街地再開発事業の実施箇所総数の増加 市街地再開発事業の都市計画決定総数	2箇所	箇所	3箇所

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												R03	R04	R05	R06	R07			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
市街地整備事業	A13-001	市街地	一般	富良野市	直接	富良野市	-	-	東5条通地区再生計画検討	地区再生計画作成 A=9.2ha	富良野市						9	-	
											小計						9		
											合計						9		

(参考様式3) 参考図面 (社会資本整備総合交付金)

